

将来又は多数の財産の担保化

2007年11月14日

中 田 裕 康

1 複数の財産の担保化をめぐる問題

2 債権譲渡担保

(1) 問題点と分析手法

(2) 単発の将来債権

(i) 具体例

- ・ 停止条件付き又は始期付きの契約から発生すべき債権
- ・ 契約その他の法律関係に基づいて発生すべき債権
- ・ 基本となる契約その他の法律関係はなく、発生する蓋然性が、事実上予想されるもの

(ii) 各種の問題

(iii) 将来債権の譲渡担保の有効性と債権の移転時期・対抗要件

(a) 将来債権の譲渡契約の有効性と債権の移転時期・対抗要件

α 条件付き債権譲渡契約

β 無条件の債権譲渡契約

(b) 将来債権の譲渡担保

α 将来債権の譲渡担保契約の有効性

β 将来債権の譲渡担保の効力

γ 債権移転のメカニズムと対抗要件

(3) 単一債務者との間で継続的に発生する将来債権

(i) 具体例

- ・ 定期的に発生する債権
- ・ 反復的（不定期的）に発生する債権

(ii) 問題点

- (a) 将来債権の譲渡の有効性（一般）
- (b) 将来の不動産賃料債権の譲渡
- (4) 多数債権（複数の又は不特定の債務者に対する将来債権を含む多数債権）
 - (i) 具体例
 - (ii) 問題点
 - (a) 特定性
 - (b) 公序良俗違反性（包括性）
 - (c) 対抗要件
 - α 民法上の対抗要件
 - β 対抗要件に関する特別法
- (5) 将来・多数の債権の譲渡担保の問題点の整理

3 動産譲渡担保

- (1) 問題点と分析手法
- (2) 将来動産
- (3) 多数動産
- (4) 将来・多数の動産の譲渡担保の問題点の整理

4 将来・多数財産としての集合財産

- (1) 将来性×多数性の問題
- (2) 債権+動産の問題
- (3) まとめ

以 上